

子育て支援に関するアンケート 報 告 書

平成 19 年 3 月

出 雲 市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	1
6. 回答者の属性	2
II 調査結果	5
1. 子どもの生活状況などについて	5
(1) 朝食の状況	5
(2) 就寝時刻	6
(3) 歯磨きについて	7
(4) 乳幼児健診について	9
(5) 乳幼児健診を受けた感想	10
(6) 保護者の妊娠中の喫煙及び現在の喫煙について	11
(7) 妊娠・出産した時の状況	13
(8) 子育ての主な相談相手	14
(9) 子育てに自信が持てないこと	15
2. いきいきこどもプランの主な取り組みについて	17
(1) 「いきいきこどもプラン（いずも次世代育成支援行動計画）」の周知状況	17
(2) 子育て支援に関する取り組みの満足度と重要度	18
3. 少子化対策のために必要なことについて	23
(1) 地域全体で子どもを育てられているという実感について	23
(2) 地域全体で子どもを健やかに育てるために必要なこと	25
(3) 出生率が低下している原因について	26
(4) 晩婚化、非婚について	27
(5) 少子化に歯止めをかけるために必要な政策について	28
(6) 経済的支援策として望むもの	29

I 調査の概要

1. 調査の目的

「いきいきこどもプラン～いずも次世代育成支援行動計画」に基づき、安心して子どもを
み育てることができる環境づくりを一層効果的に進めるため、今後の施策を検討するうえでの
基礎資料とする。

2. 調査項目

- (1) 子どもの生活状況などについて
- (2) いきいきこどもプランの主な取り組みについて
- (3) 少子化対策のために必要なことについて

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 出雲市全域
- (2) 調査対象 就学前または子どもがいる家庭 2,000 世帯
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間 平成 18 年 12 月 18 日～平成 19 年 1 月 12 日

4. 回収結果

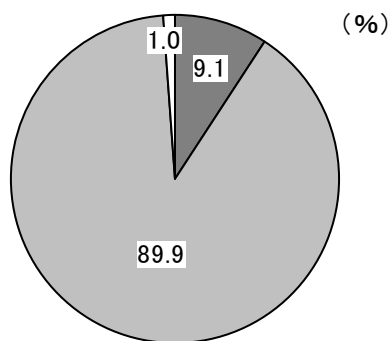
- (1) 標本数 2,000
- (2) 回収数 803 (有効回収数 40.1%)

5. 報告書の見方

- (1) 集計結果は全て、小数点以下第 2 位を四捨五入しており、回答比率の合計が 100.0%に
ならない場合がある。
- (2) 複数回答の質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- (3) 回答比率には、その質問の回答者数を基数として算出した。
- (4) グラフ中の数字について省略している場合がある。

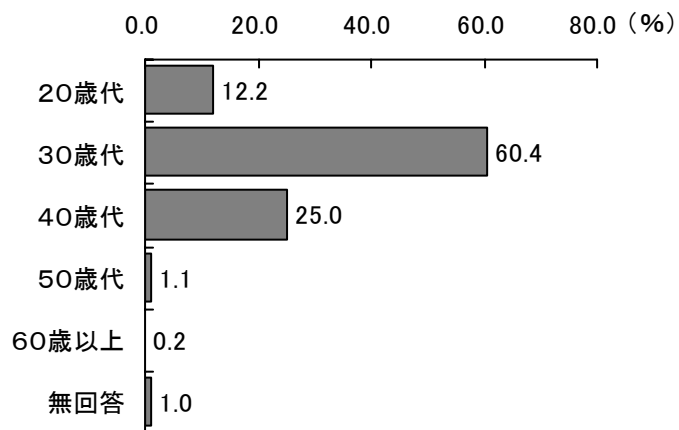
6. 調査対象者の属性

①回答者の性別



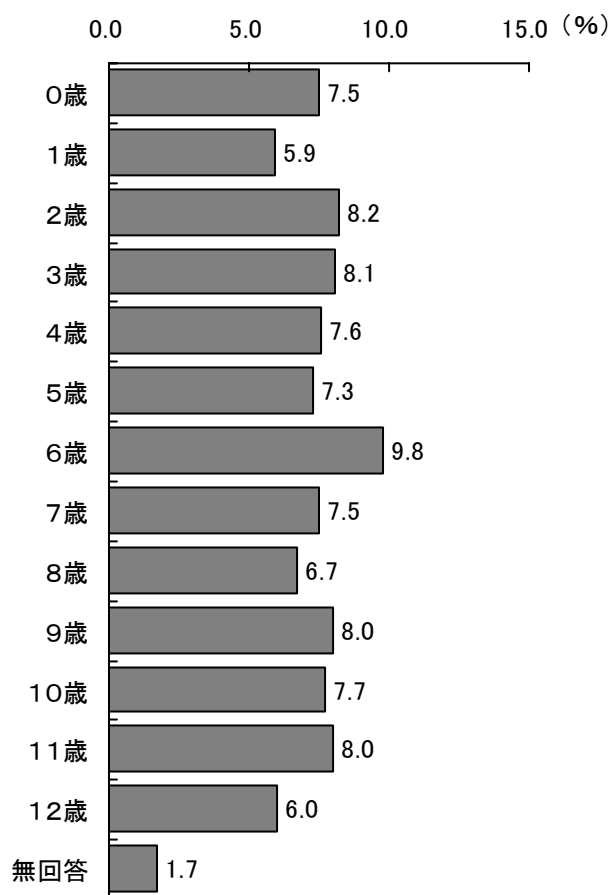
	人数(人)	比率 (%)
男 性	73	9.1
女 性	722	89.9
無回答	8	1.0
合 計	803	100.0

②回答者の年齢



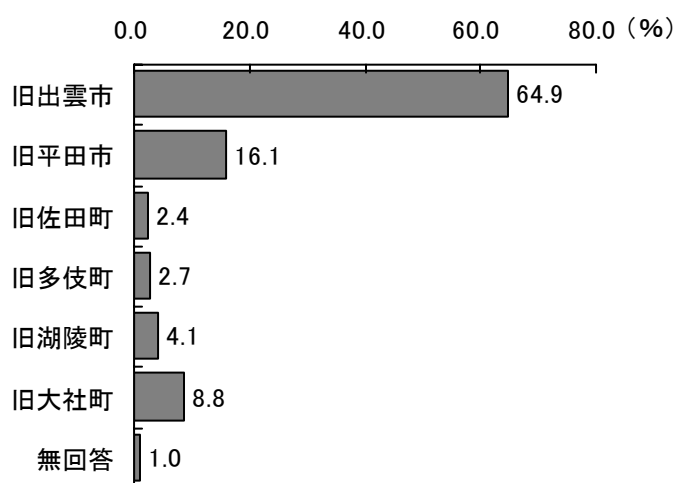
	人数(人)	比率 (%)
20歳代	98	12.2
30歳代	485	60.4
40歳代	201	25.0
50歳代	9	1.1
60歳以上	2	0.2
無回答	8	1.0
合 計	803	100.0

③子どもの年齢



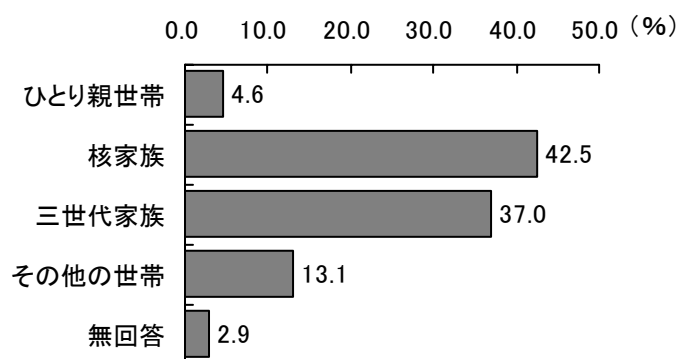
	人数(人)	比率 (%)
0 歳	6 0	7. 5
1 歳	4 7	5. 9
2 歳	6 6	8. 2
3 歳	6 5	8. 1
4 歳	6 1	7. 6
5 歳	5 9	7. 3
6 歳	7 9	9. 8
7 歳	6 0	7. 5
8 歳	5 4	6. 7
9 歳	6 4	8. 0
1 0 歳	6 2	7. 7
1 1 歳	6 4	8. 0
1 2 歳	4 8	6. 0
無回答	1 4	1. 7
合 計	8 0 3	1 0 0. 0

④居住地域



	人数(人)	比率 (%)
旧出雲市	5 2 1	6 4. 9
旧平田町	1 2 9	1 6. 1
旧佐田町	1 9	2. 4
旧多伎町	2 2	2. 7
旧湖陵町	3 3	4. 1
旧大社町	7 1	8. 8
無回答	8	1. 0
合 計	8 0 3	1 0 0. 0

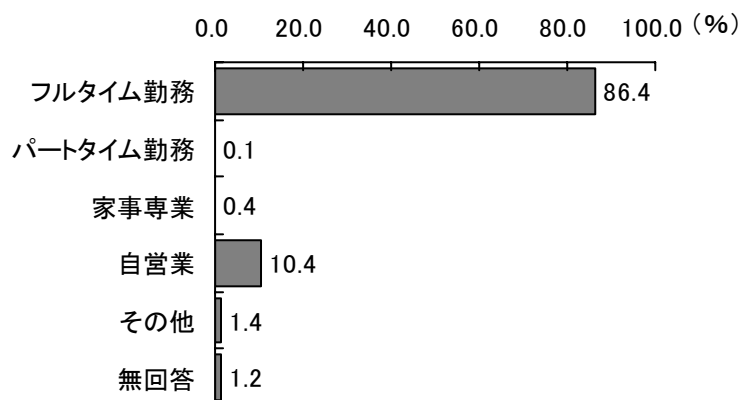
⑤家族構成



	人数(人)	比率 (%)
ひとり親世帯	37	4.6
核家族	341	42.5
三世代家族	297	37.0
その他の世帯	105	13.1
無回答	23	2.9
合 計	803	100.0

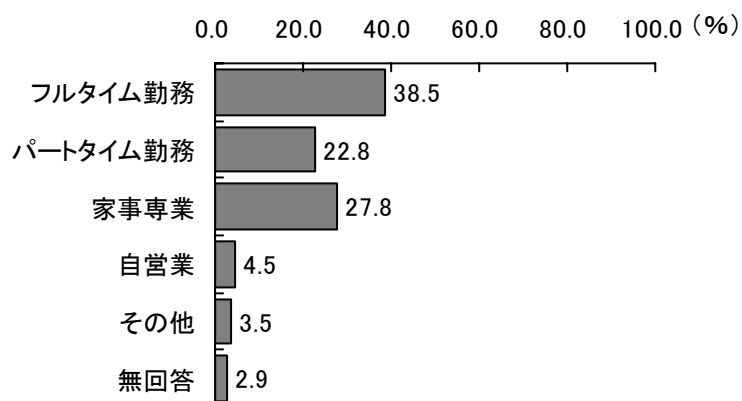
⑥保護者の就労形態

◆父親



	人数(人)	比率 (%)
フルタイム勤務	631	86.4
パートタイム勤務	1	0.1
家事専業	3	0.4
自営業	76	10.4
その他	10	1.4
無回答	9	1.2
合 計	730	100.0

◆母親



	人数(人)	比率 (%)
フルタイム勤務	294	38.5
パートタイム勤務	174	22.8
家事専業	212	27.8
自営業	34	4.5
その他	27	3.5
無回答	22	2.9
合 計	763	100.0

Ⅱ 調査結果

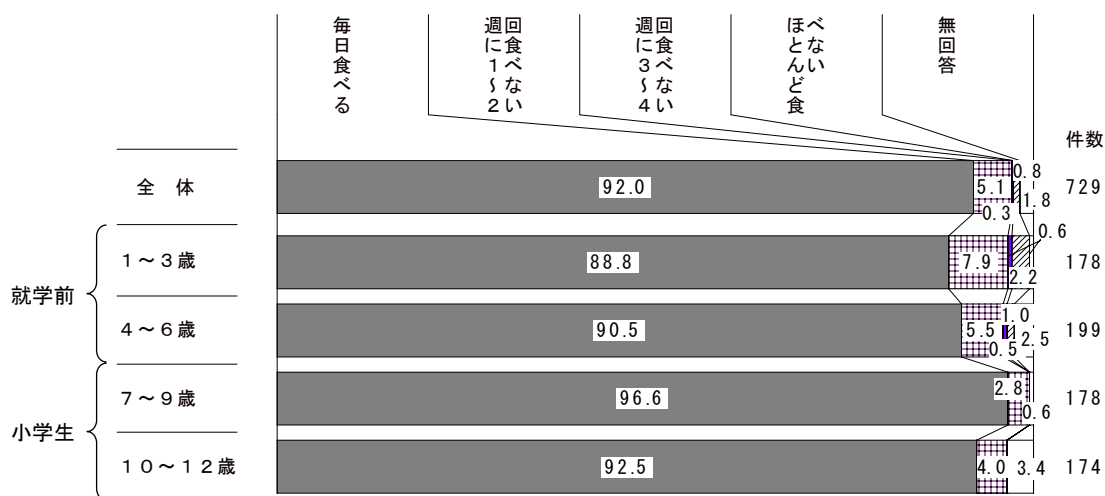
1. 子どもの生活状況などについて

(1) 朝食の状況（1歳以上の子どもがいる保護者のみ回答）

朝食のとり方について、全体では「毎日食べる」が92.0%で9割を超えている。

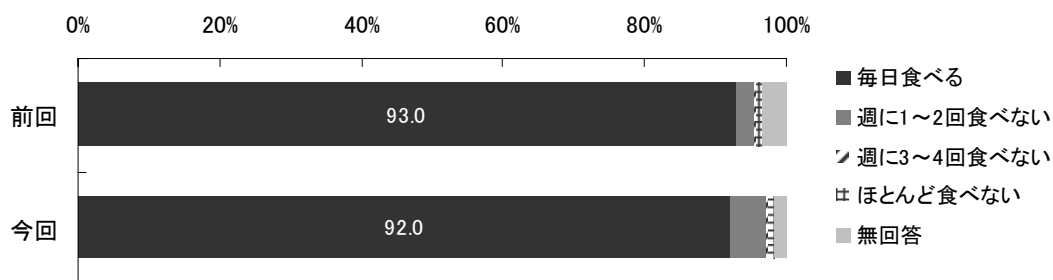
子どもの年齢別にみると、7～9歳で「毎日食べる」の割合が96.6%で最も高くなっている。

【図 1-1 子どもの朝食の状況】



前回調査との比較

全体の回答について、「毎日食べる」の割合は、前回が93.0%、今回が92.0%とほとんど変化はみられない。



※前回調査は平成17年度実施

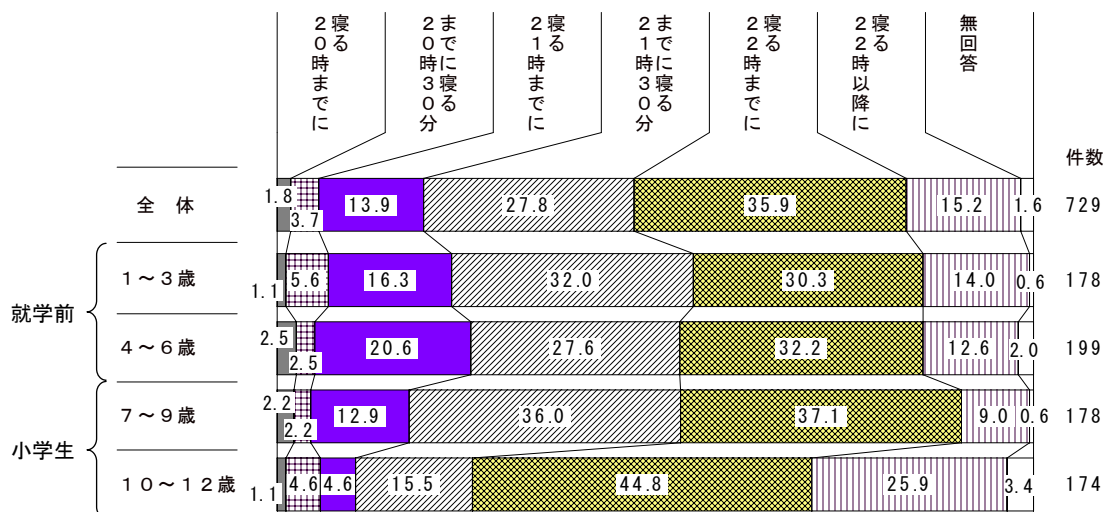
（２）就寝時刻（１歳以上の子どもがいる保護者のみ回答）

就寝時刻について、全体では21時までに寝る子どもが19.4%、22時までに寝る子どもが63.7%となっており、22時までには就寝する子どもが80%を超えている。

子どもの年齢別にみると、小学校高学年（10～12歳）では、22時以降に寝るという子どもが25.9%あり、他の年齢に比べて高くなっている。

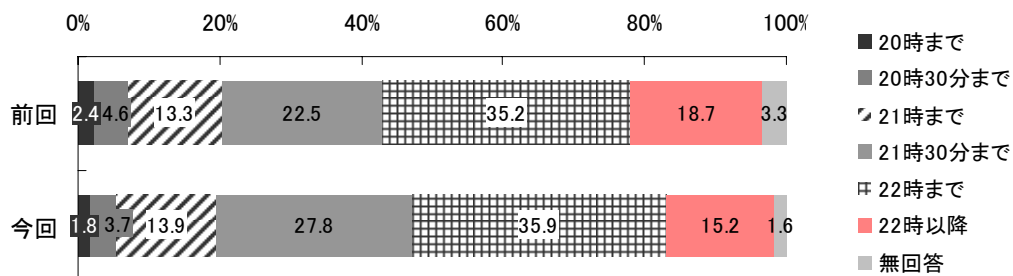
年齢が上がるにつれて、21時までに寝る子どもの割合が低くなっている。

【図 1-2 子どもの就寝時間】



前回調査との比較

全体の回答や年齢別の回答について、前回と今回の結果で大きな変化はみられず、22時までに就寝する子どもが80%となっている。



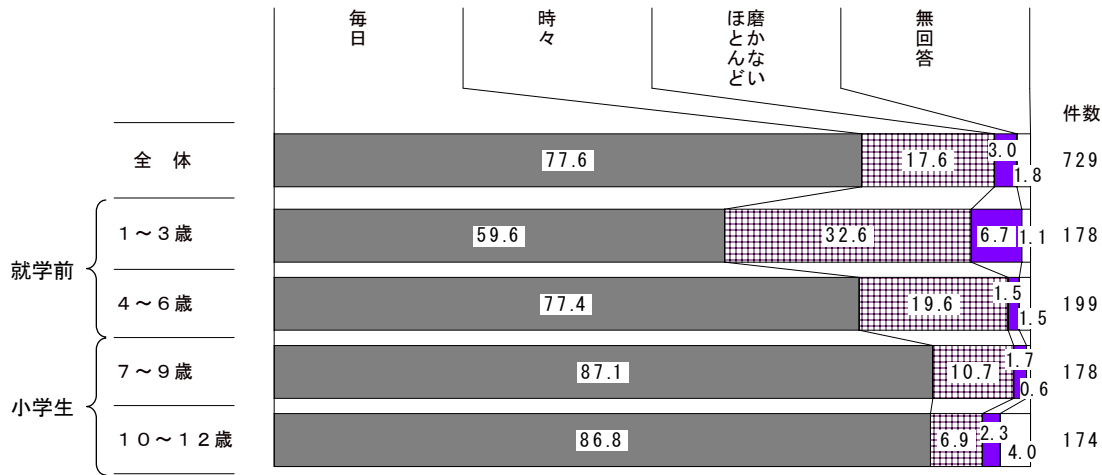
(3) 歯磨きについて（1歳以上の子どもがいる保護者のみ回答）

①自分で歯を磨くかどうか

歯磨きについて、全体では「毎日」が77.6%となっている。次に「時々」が17.6%、「ほとんど磨かない」が3.0%となっている。

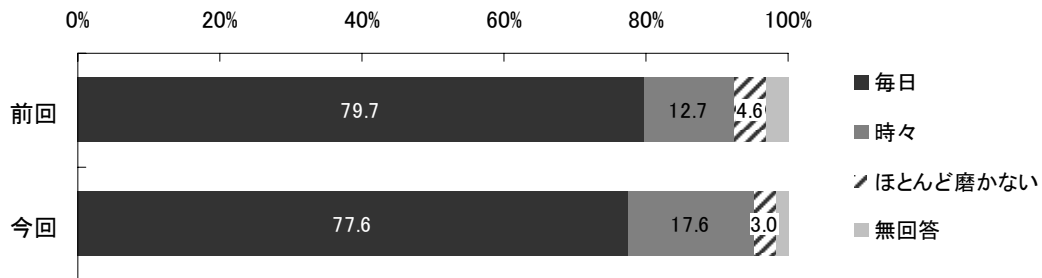
子どもの年齢別にみると、小学生では「毎日」の割合が90%近くに達しているが、「ほとんど磨かない」という回答もわずかながら約2%ある。

【図 1-3 歯磨きの状況】



前回調査との比較

全体の回答について、「毎日」の割合は、前回は79.7%、今回は77.6%とほとんど変化はみられない。

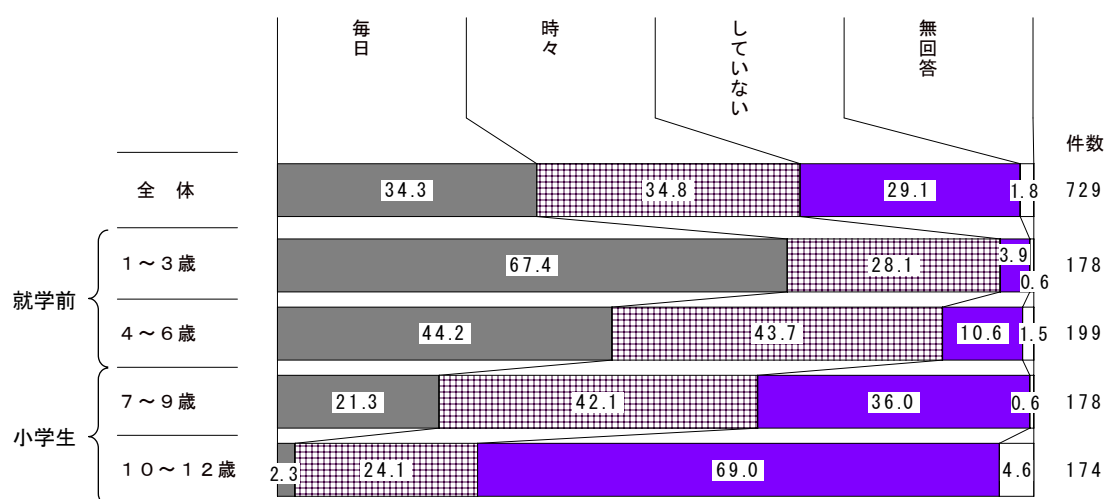


②保護者による点検磨き

保護者による点検磨きについて、全体では「毎日」が 34.3%、「時々」が 34.8%、「していない」が 29.1%となっている。

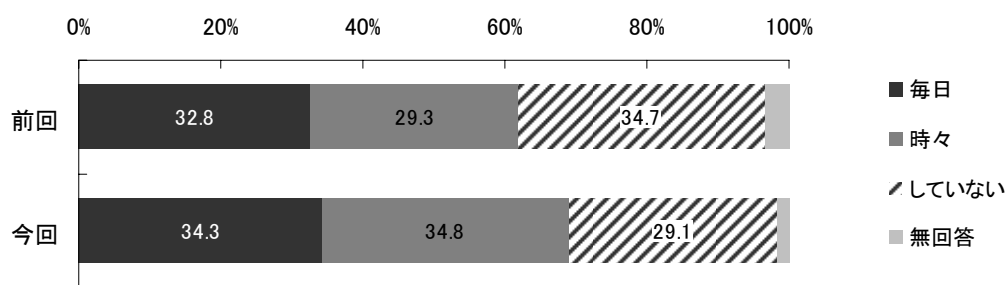
子どもの年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、「毎日」の割合が低くなり、「していない」の割合が高くなっている。

【図 1-4 点検磨きの状況】



前回調査との比較

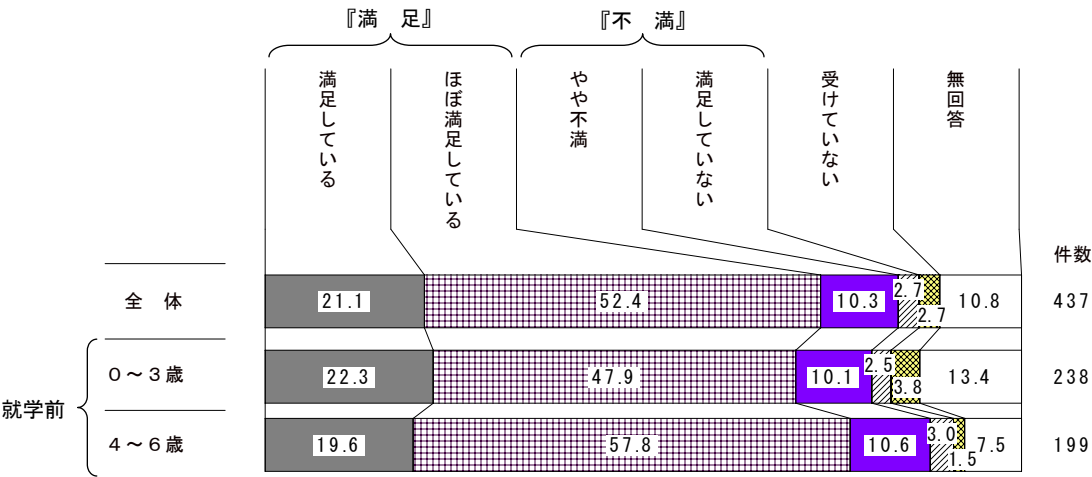
全体の回答について、「していない」の割合は、前回の 34.7%に比べ今回は 29.1%とやや低下している。



（４）乳幼児健診について（就学前の子どもがいる保護者のみ回答）

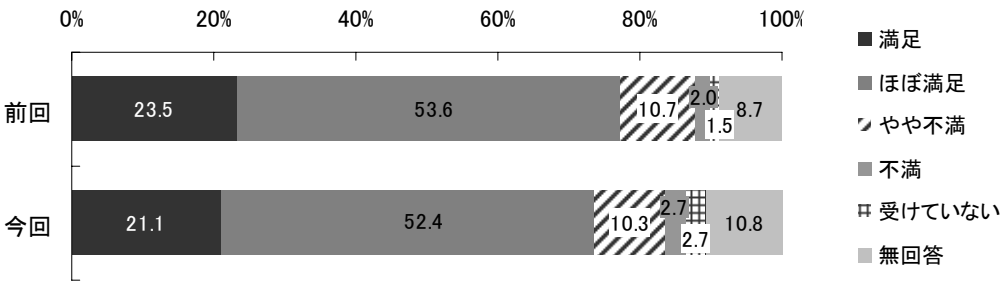
これまでに受けた乳幼児健診について、全体では「ほぼ満足している」が 52.4%で過半数となっている。次に「満足している」が 21.1%で、両方を合わせると約 7 割で『満足』の割合が高くなっている。一方、『不満』との回答は、13.0%で約 1 割ある。

【図 1-5 乳幼児健診について】



前回調査との比較

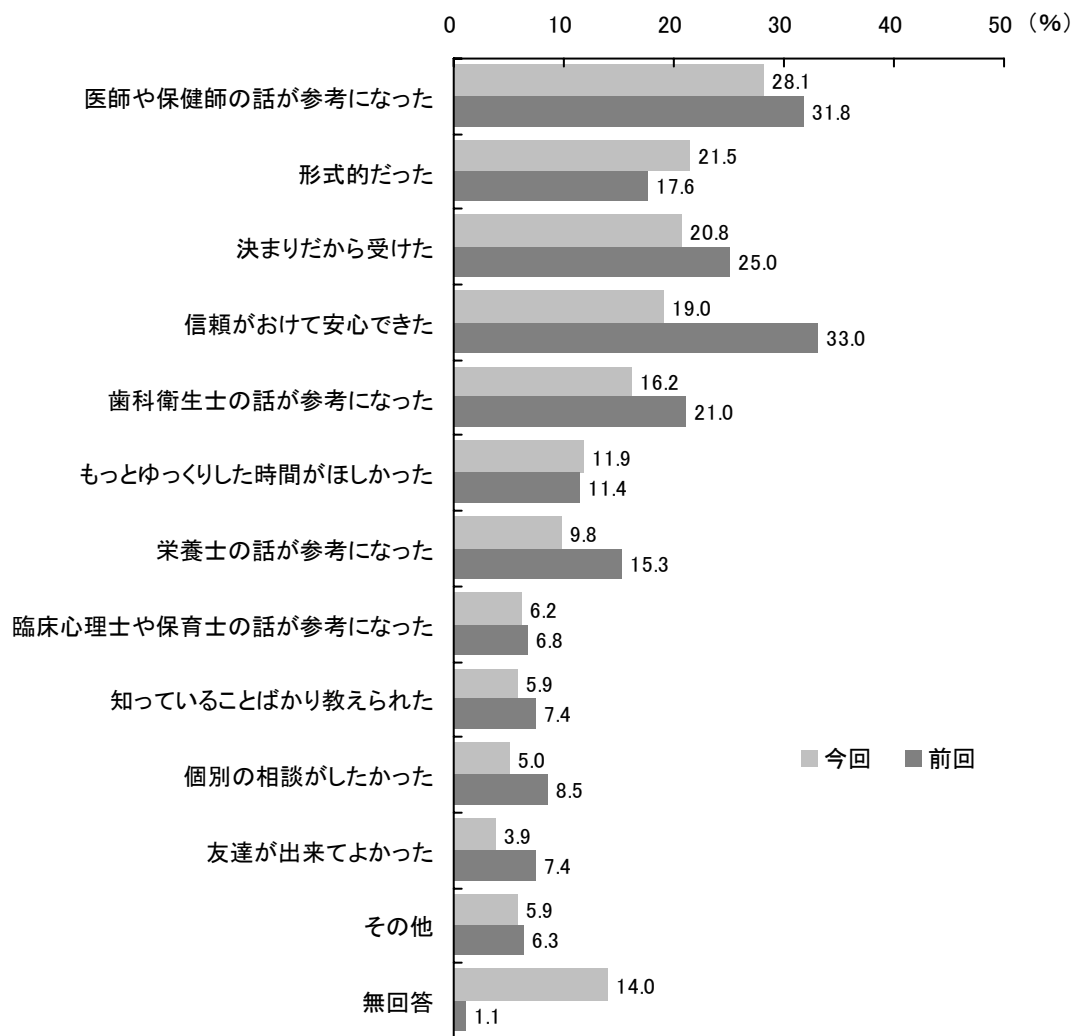
全体の回答について、『満足』の割合は、前回は 77.1%、今回が 73.5%とほとんど変化はみられない。



(5) 乳幼児健診を受けた感想（就学前の子どもがいる保護者のみ回答）

乳幼児健診を受けた感想として、「医師や保健師の話が参考になった」（28.1%）、「形式的だった」（21.5%）、「決まりだから受けた」（20.8%）、「信頼がおけて安心できた」（19.0%）などの回答が多くなっている。

【図 1-6 乳幼児健診の感想】



前回調査との比較

上位3項目をみると、前回に比べ今回は、「形式的だった」や「決まりだから受けた」などのあまり良い印象をもたなかったという感想が上位にあがってきている。

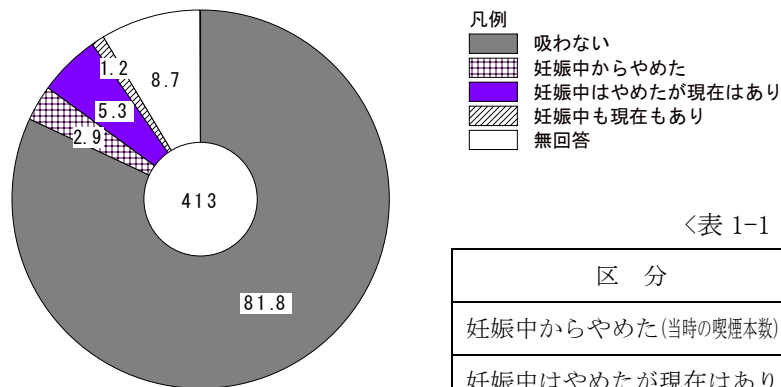
また、「信頼がおけて安心できた」の割合が、前回の33.0%に比べ今回は19.0%で大きく低下している。

(6) 保護者の妊娠中の喫煙及び現在の喫煙について(就学前の子どもがいる保護者のみ回答)

①母親

母親の喫煙状況は、「吸わない」が81.8%で多数となっている。「妊娠中も現在もあり」との回答はわずかだが1.2%ある。

【図 1-7 母親の喫煙状況】



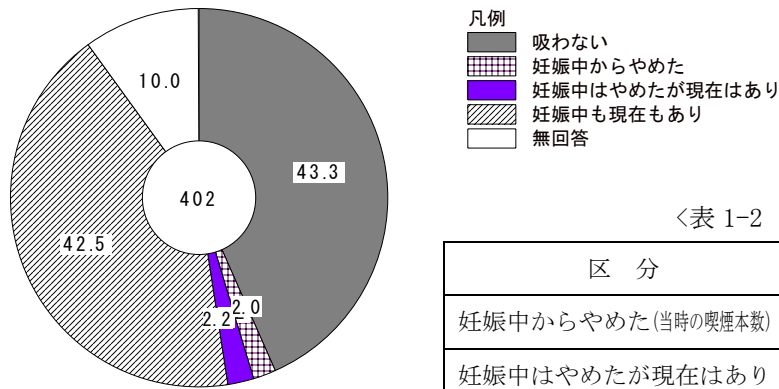
＜表 1-1 母親の喫煙本数＞

区 分	9 本まで	10～19 本	20 本以上
妊娠中からやめた(当時の喫煙本数)	4 人	5 人	1 人
妊娠中はやめたが現在はあり	5 人	13 人	3 人
妊娠中も現在もあり	1 人	2 人	1 人

②父親

父親の喫煙状況は、「吸わない」が43.3%、「妊娠中も現在もあり」が42.5%、「妊娠中はやめたが現在はあり」が2.2%、「妊娠中からやめた」が2.0%となっている。

【図 1-8 父親の喫煙状況】



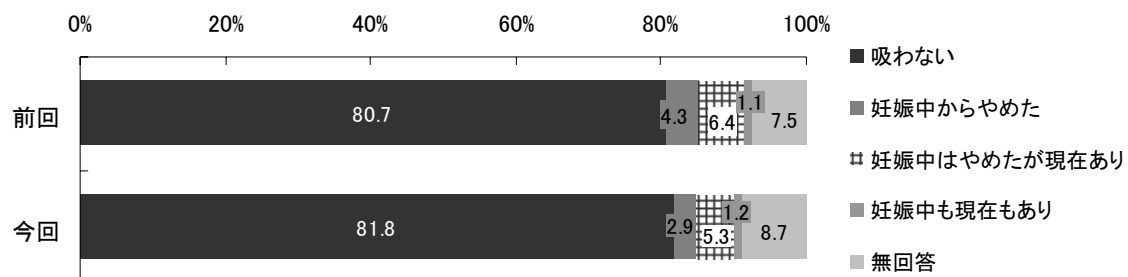
＜表 1-2 父親の喫煙本数＞

区 分	9 本まで	10～19 本	20 本以上
妊娠中からやめた(当時の喫煙本数)	1 人	4 人	2 人
妊娠中はやめたが現在はあり	2 人	2 人	4 人
妊娠中も現在もあり	12 人	60 人	73 人

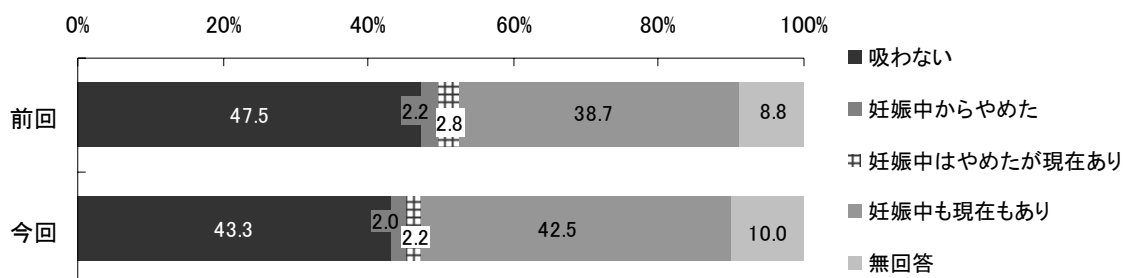
前回調査との比較

前回と今回の結果を比べるとほとんど変化はみられない。

(母親)



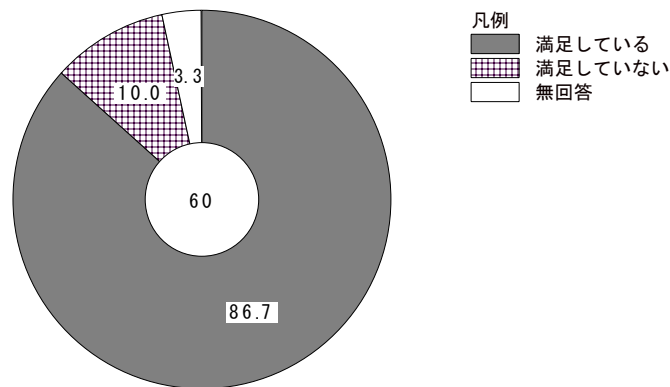
(父親)



(7) 妊娠・出産した時の状況（1歳未満の子どもがいる保護者のみ回答）

妊娠・出産した時の状況について、「満足している」が86.7%、「満足していない」が10.0%で、「満足している」が「満足していない」を大きく上回っている。

【図 1-9 妊娠・出産した時の状況】

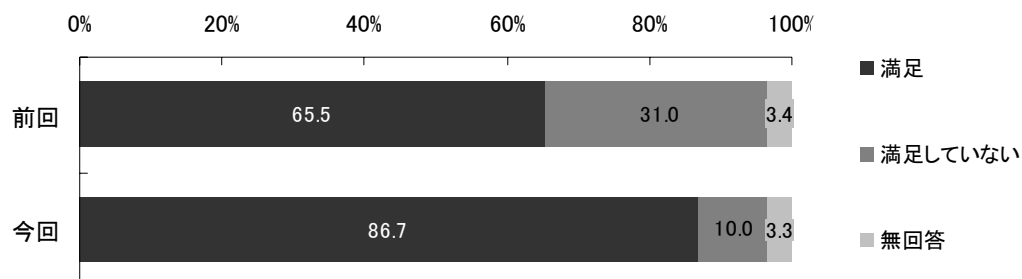


＜表 1-3 満足していない理由＞

項 目	回答人数（人）
病院・産院のスタッフ	2
病院・産院の設備	1
妊娠・出産・育児についての不安への対応	1
配偶者・パートナーの援助や家族の協力	1
職場の理解や対応	1
母親（両親）学級	0
妊娠中の受動喫煙への配慮	0
その他	1

前回調査との比較

全体の回答について、「満足している」の割合は、前回の 65.5%に対し今回は 86.7%と大きく上昇している。

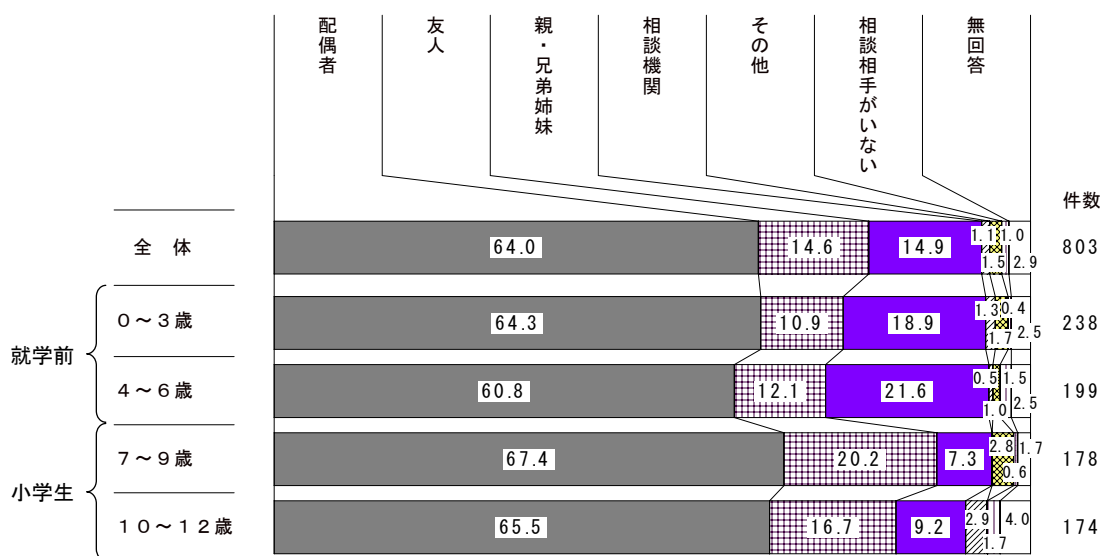


（８）子育ての主な相談相手

子育ての主な相談相手について、全体では「配偶者」が 64.0%で最も多く、次に「親・兄弟姉妹」（14.9%）、「友人」（14.6%）となっている。「相談相手がいない」という回答が 1.0%ある。

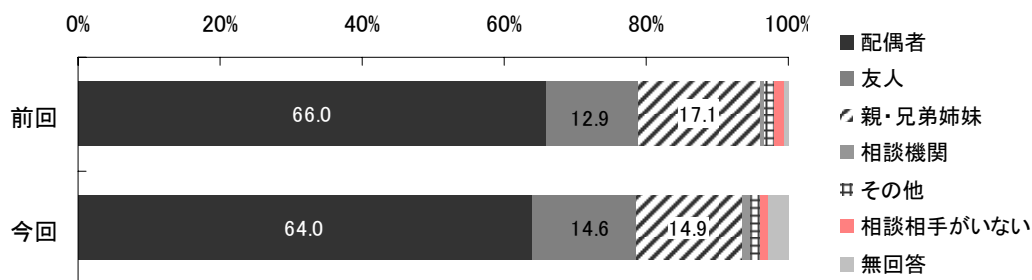
子どもの年齢別にみると、就学前、小学生ともに「配偶者」の割合が最も高くなっている。

【図 1-10 子育ての主な相談相手】



前回調査との比較

全体の回答について、「配偶者」の割合が最も高く、前회가 66.0%、今回が 64.0%でほとんど変化はみられない。



（９）子育てに自信が持てないこと

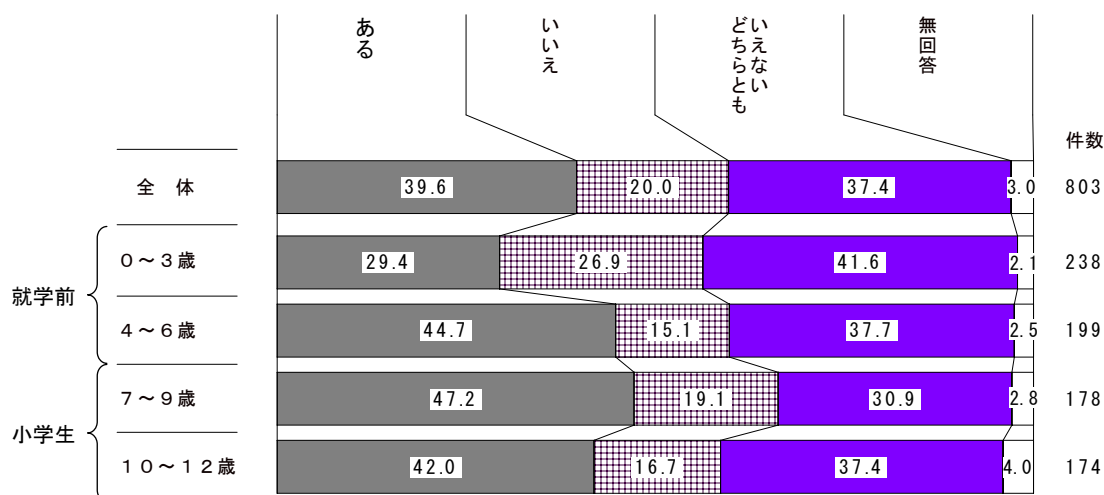
子育てに自身がもてないことがあるかどうかについて、全体では「ある」が 39.6%、「いいえ」が 20.0%、「どちらともいえない」が 37.4%で、「ある」の割合が最も高くなっている。

子どもの年齢別にみると、就学前の 4～6 歳と小学生について、子育てに自信が持てないことが「ある」との回答が 40%を超え、小学校低学年では 47.2%で最も高くなっている。

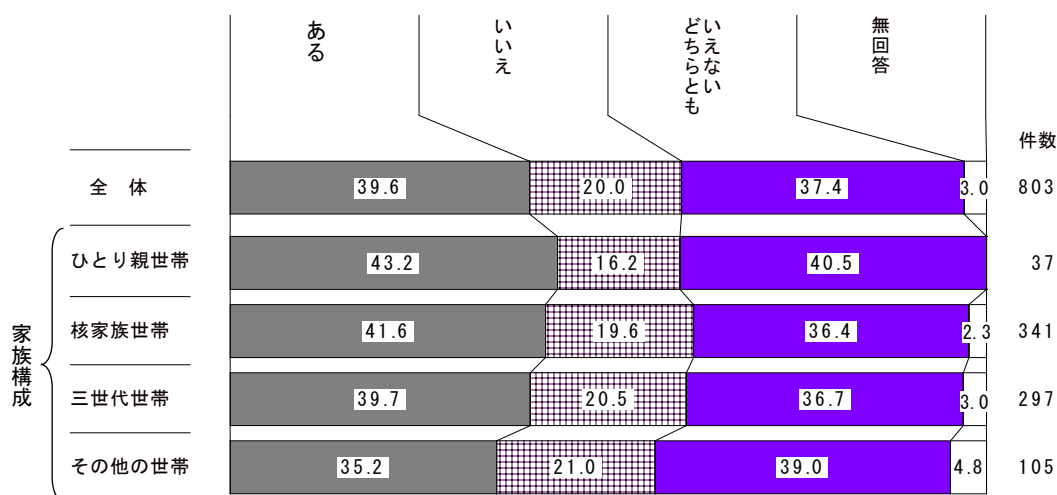
家族構成別にみると、ひとり親世帯、核家族世帯、三世代世帯のいずれも子育てに自信が持てないことが「ある」との回答が約 40%を占めている。

保護者の就労状況別にみると、「夫：フルタイム 妻：パートタイム」「夫：フルタイム 妻：家事専業」で、子育てに自信が持てないことが「ある」との回答が 40%を超えている。

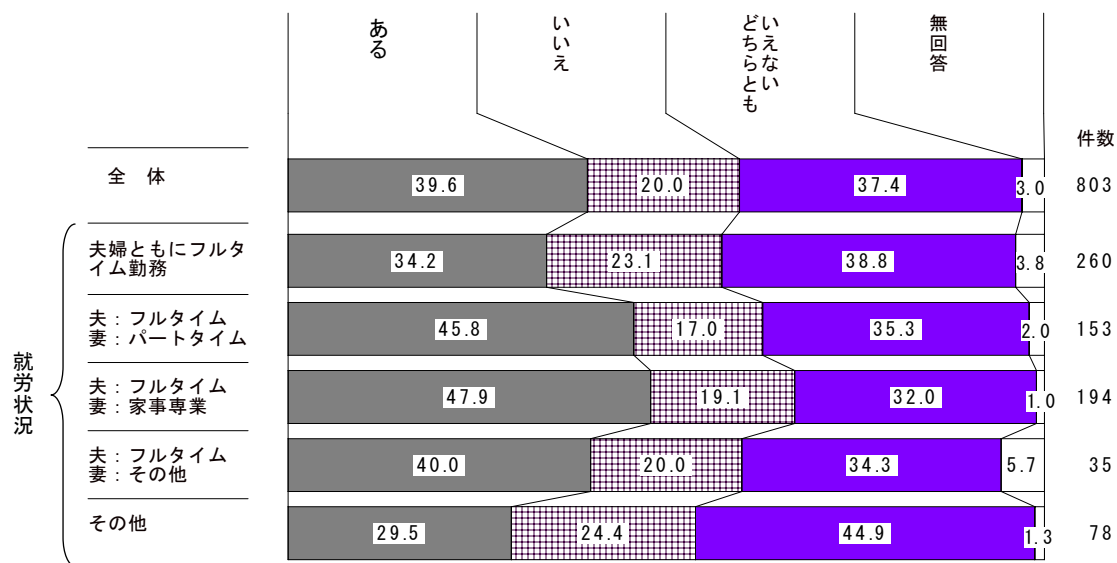
【図 1-11 子育てに自信が持てないこと（年齢別）】



【図 1-12 子育てに自信が持てないこと（家族構成別）】

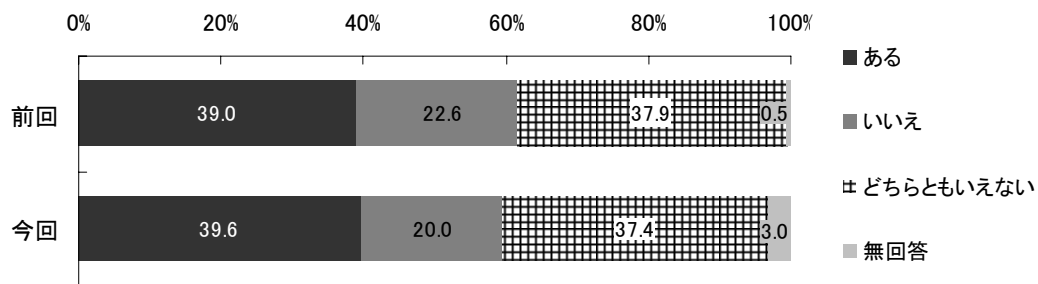


【図 1-13 子育てに自信が持てないこと（就労状況別）】



前回調査との比較

全体の回答について、自信が持てないことが「ある」の割合は、前回は 39.0%、今回は 39.6%とほとんど変化はみられない。

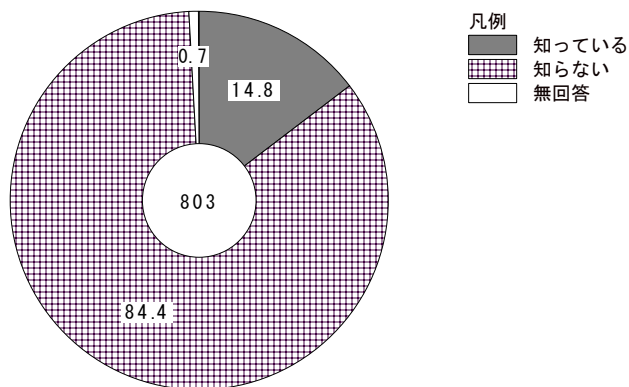


2. いきいき子どもプランの主な取り組みについて

(1) 「いきいき子どもプラン（いずも次世代育成支援行動計画）」の周知状況

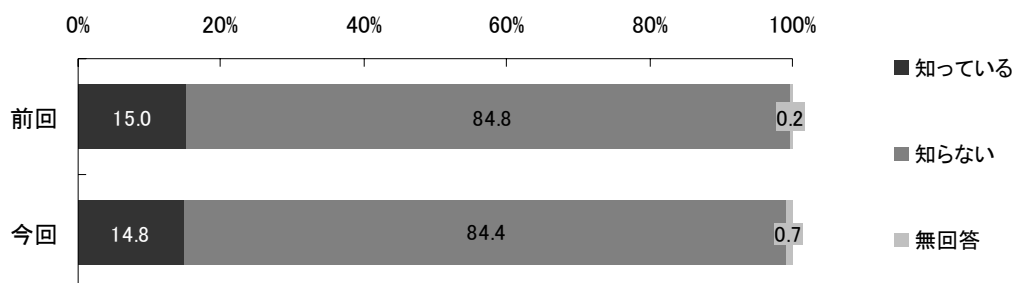
「いきいき子どもプラン（いずも次世代育成支援行動計画）」について、「知っている」が14.8%、「知らない」が84.4%となっており、知らない人が多くなっている。

【図 2-1 いきいき子どもプランの周知状況】



前回調査との比較

前回の調査と比較すると、変化はみられない。



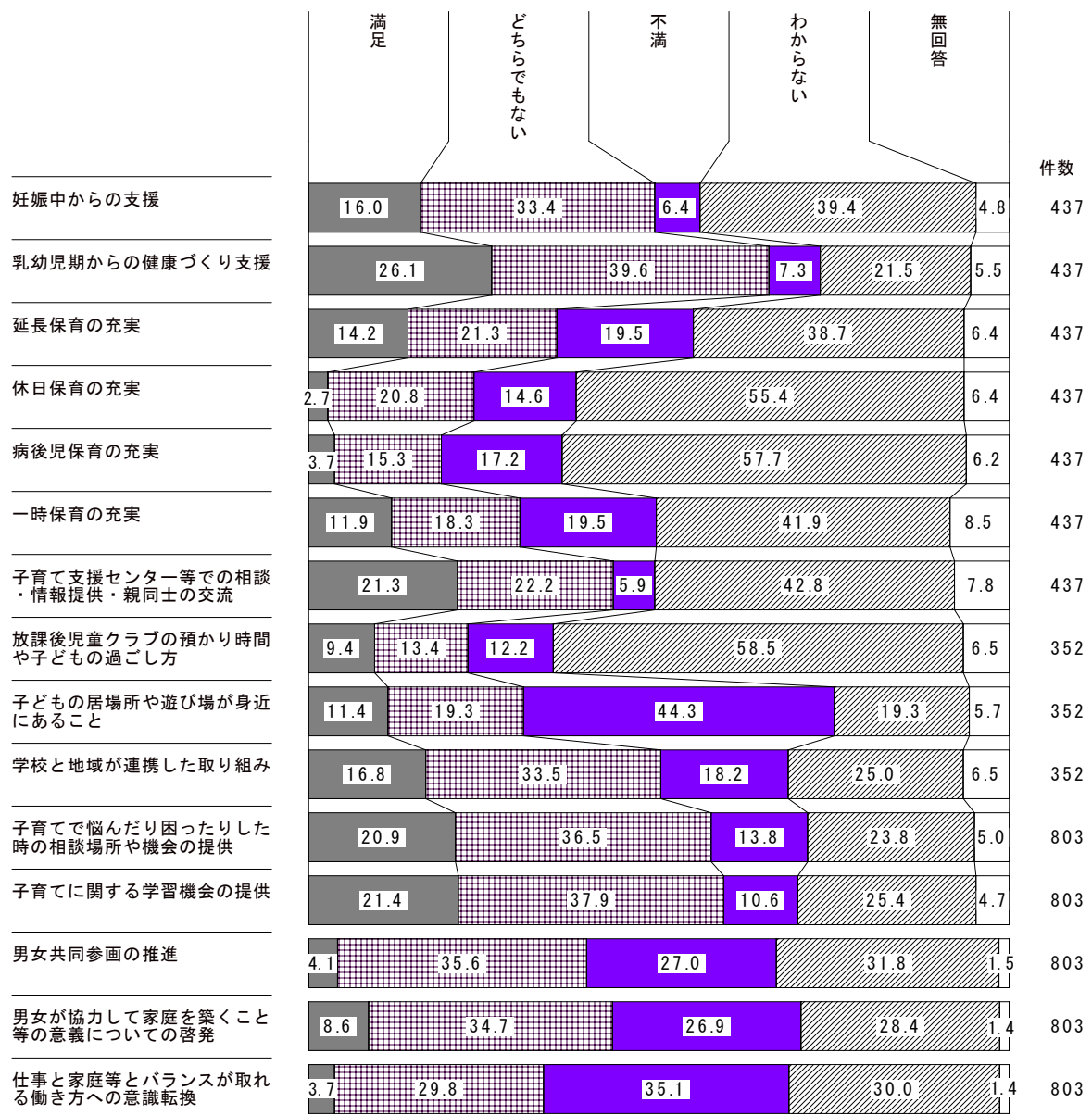
(2) 子育て支援に関する取り組みの満足度と重要度

◆満足度

子育て支援施策に関する満足度について、「乳幼児期からの健康づくり支援」では「満足」の割合が 26.1%で最も高くなっている。「子育て支援センター等での相談・情報提供・親同士の交流」、「子育てで悩んだり困ったりした時の相談場所や機会の提供」、「子育てに関する学習機会の提供」なども「満足」の割合も 20%を超え、他の項目に比べて高くなっている。

一方で、「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」、「仕事と家庭等とバランスが取れる働き方への意識転換」などでは「不満」の割合が他の項目に比べて高くなっている。

【図 2-2 子育て支援施策の満足度】



前回調査との比較

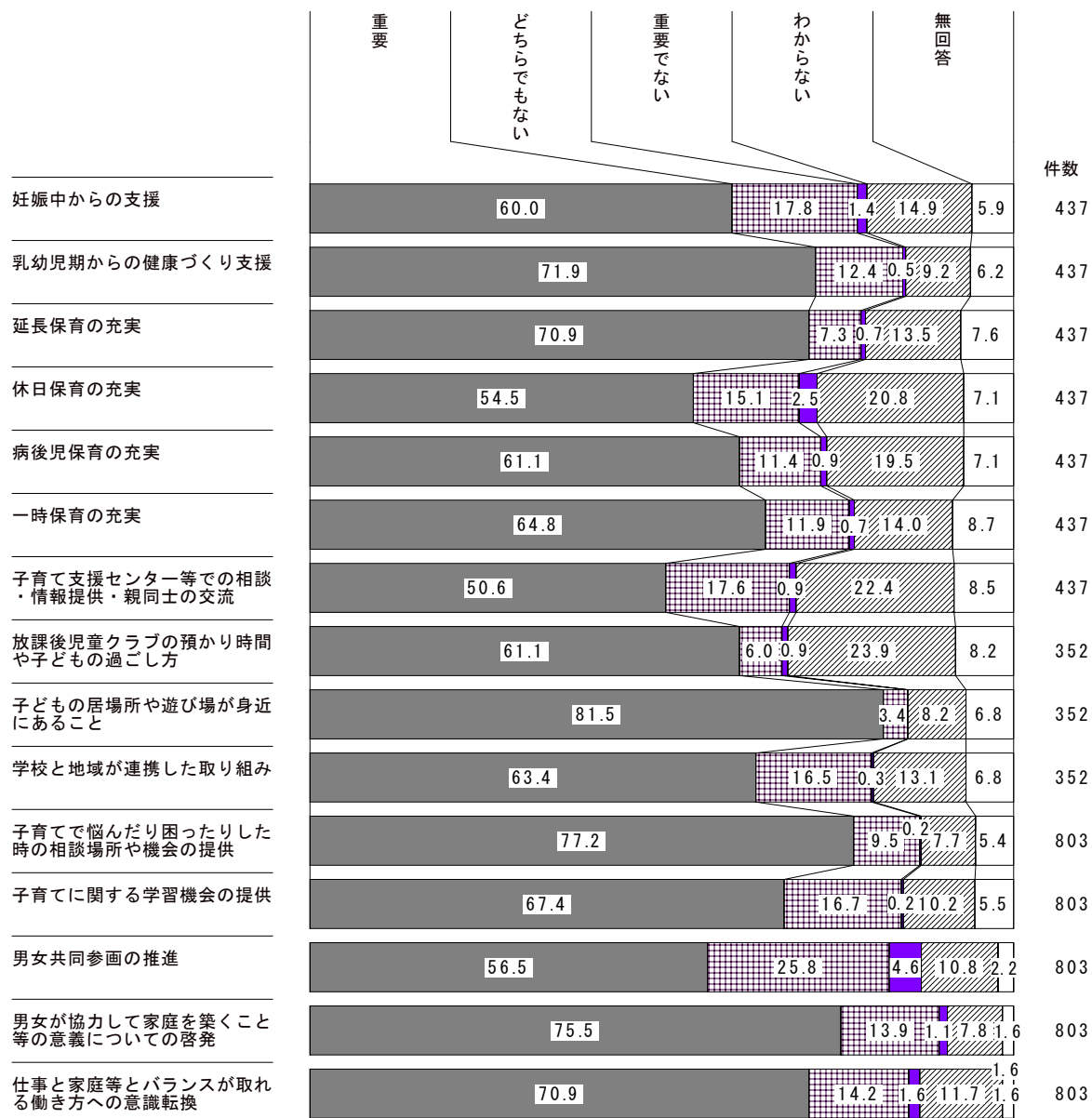
前回の調査と比較すると、満足度が高い項目や低い項目について大きな変化はみられない。

◆重要度

子育て支援施策に関する重要度について、「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」では「重要」の割合が 81.5%で最も高くなっている。「子育てで悩んだり困ったりした時の相談場所や機会の提供」、「男女が協力して家庭を築くこと等の意義についての啓発」なども 75%を超え他の項目に比べて高くなっている。

すべての項目で「重要」の割合が 50%を超えて最も高くなっている。

【図 2-3 子育て支援施策の重要度】



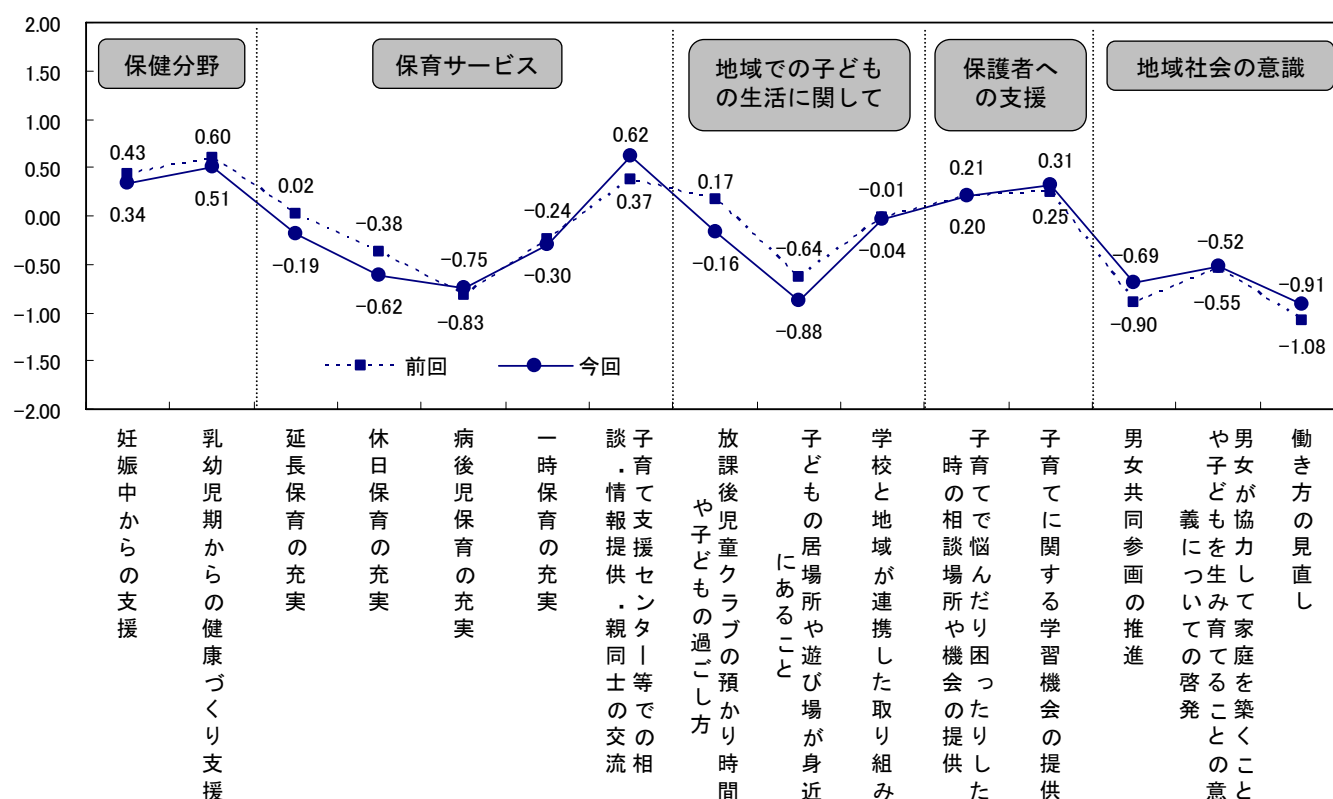
前回調査との比較

前回の調査と比較すると、重要度が高い項目について大きな変化はみられない。

◆満足度の評価点

「満足」「どちらでもない」「不満」の評価に、3段階の評価点を与え（「満足」2点、「どちらでもない」0点、「不満」-2点）、その平均点を算出した結果、最も得点が高いのは、「子育て支援センター等での相談・情報提供・親同士の交流」で0.62点、次に「乳幼児期からの健康づくり支援」が0.51点、「妊娠中からの支援」が0.34点となっている。一方、最も得点が高いのは「仕事と家庭等とバランスが取れる働き方への意識転換」で-0.91点、次に「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」が-0.88点、「病後児保育の充実」が-0.88点となっている。

【図2-4 子育て支援施策の満足度評価点】



前回調査との比較

前回の調査と比較すると、全体が示す傾向に大きな変化はみられない。

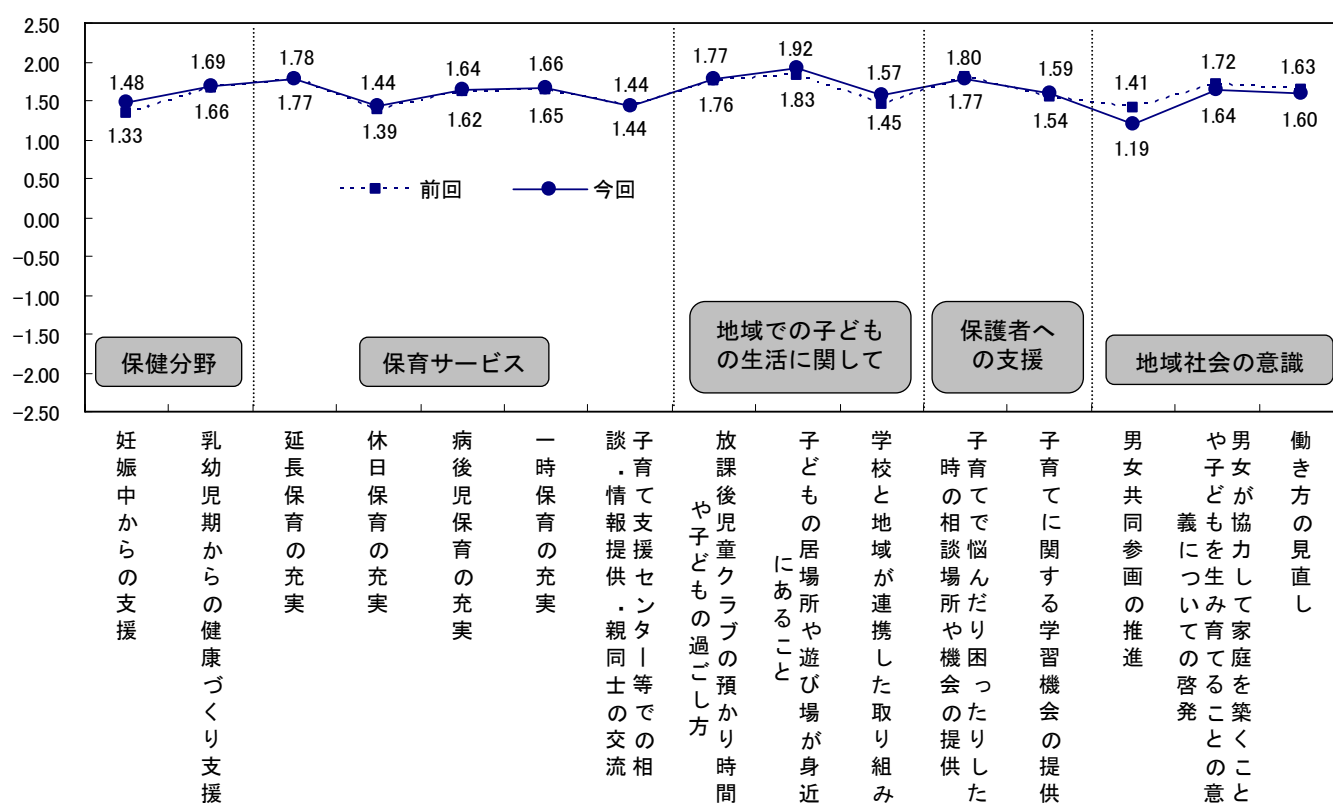
「子育て支援センター等での相談・情報提供・親同士の交流」について、今回の得点が前回の得点を上回っている。

◆重要度の評価点

「重要」「どちらでもない」「重要でない」の評価に、3段階の評価点を与え（「重要」2点、「どちらでもない」0点、「重要でない」-2点）、その平均点を算出した結果、最も得点が高いのは、「子どもの居場所や遊び場が身近にあること」で1.92点、次に「延長保育の充実」が1.78点、「放課後児童クラブの預かり時間や子どもの過ごし方」及び「子育てで悩んだり困ったりした時の相談場所や機会の提供」が1.77点となっている。

全体の傾向として、いずれの項目も重要度の評価点が高くなっている。

【図 2-5 子育て支援施策の重要度評価点】



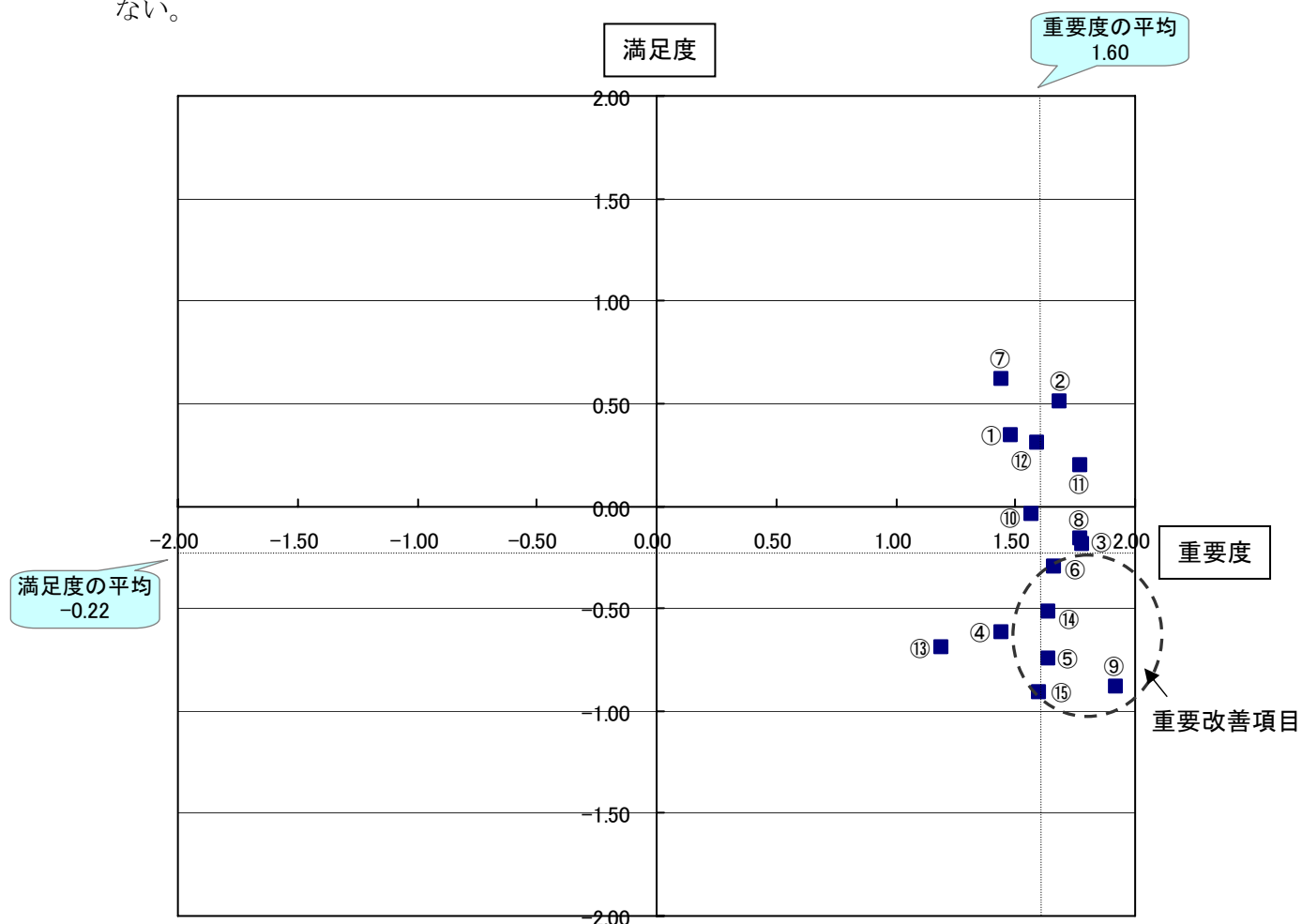
前回調査との比較

前回の調査と比較すると、全体が示す傾向に大きな変化はみられない。

◆重要度と満足度の相関

満足度と重要度の相関をみると、「⑤病後児保育の充実」「⑥一時保育の充実」「⑨子どもの居場所や遊び場が身近にあること」「⑭男女が協力して家庭を築くことや子どもを生き育てることの意義についての啓発」「⑮働き方の見直し」の5項目が、満足度が低く重要度が高い位置に分布しており、重要改善項目であるということがわかる。

前回の調査結果と比べると、「⑥一時保育の充実」について、前回は重点維持項目であったが満足度が下がり今回は重要改善項目になっている。他の項目については、変化はみられない。



- ①妊娠中からの支援（維持）
- ②乳幼児期からの健康づくり支援（重点維持）
- ③延長保育の充実（重点維持）
- ④休日保育の充実（注意）
- ⑤病後児保育の充実（重要改善）
- ⑥一時保育の充実（重点改善）
- ⑦子育て支援センター等での相談・情報提供・親同士の交流（維持）
- ⑧放課後児童クラブの預かり時間や子どもの過ごし方（重点維持）
- ⑨子どもの居場所や遊び場が身近にあること（重要改善）
- ⑩学校と地域が連携した取り組み（維持）
- ⑪子育てで悩んだり困ったりした時の相談場所や機会の提供（重点維持）
- ⑫子育てに関する学習機会の提供（維持）
- ⑬男女共同参画の推進（注意）
- ⑭男女が協力して家庭を築くことや子どもを生き育てることの意義についての啓発（重要改善）
- ⑮働き方の見直し（重要改善）

3. 少子化対策のために必要なことについて

(1) 地域全体で子どもを育てられているという実感について

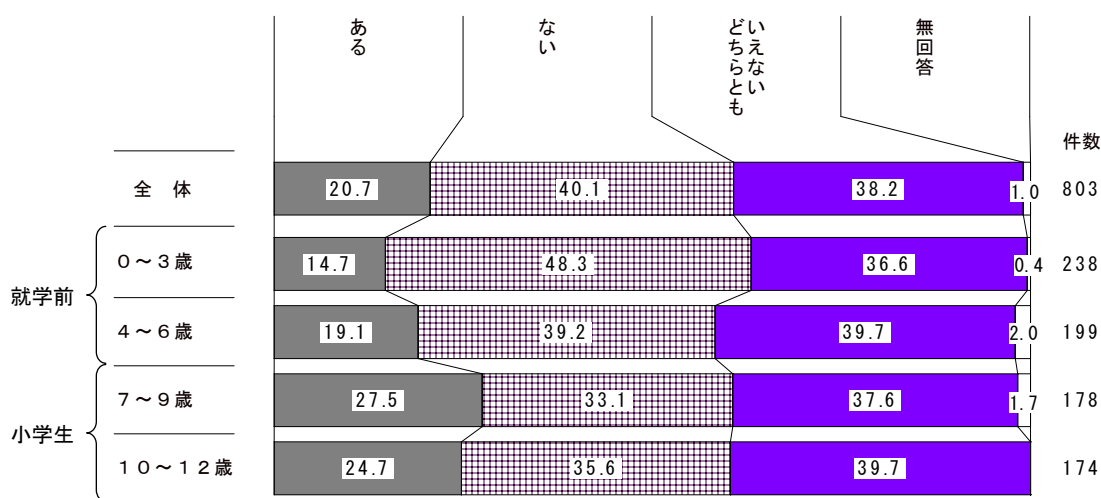
地域全体で子どもを育てられているという実感について、全体では「ある」が20.7%、「ない」が40.1%、「どちらともいえない」が38.2%となっている。

子どもの年齢別にみると、就学前に比べ小学生では「ある」の割合が高くなっている。

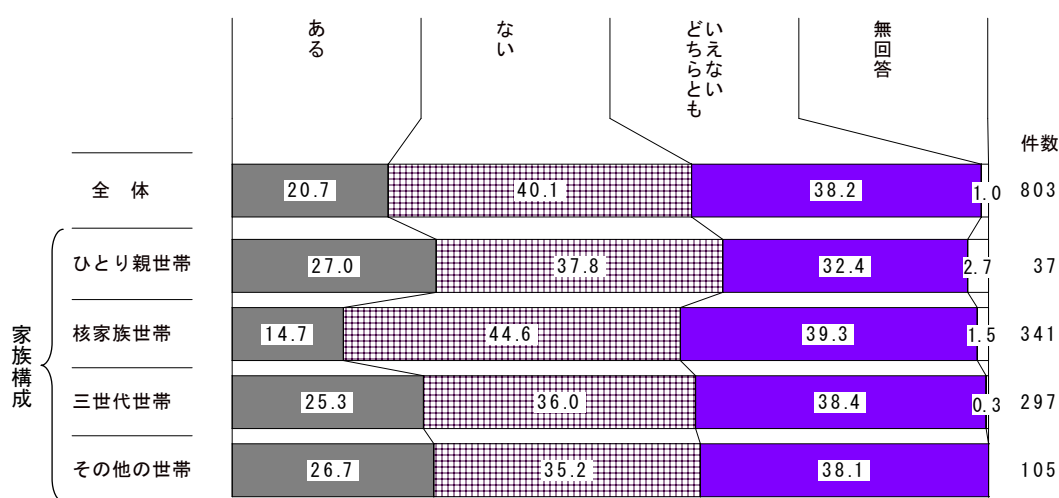
家族構成別にみると、核家族世帯では、地域全体で子どもを育てられているという実感が「ない」が44.6%で、他の家族構成に比べて高くなっている。

就労状況別にみると、「夫：フルタイム 妻：家事専業」では、実感が「ない」が45.9%で、他の就労状況に比べて高くなっている。

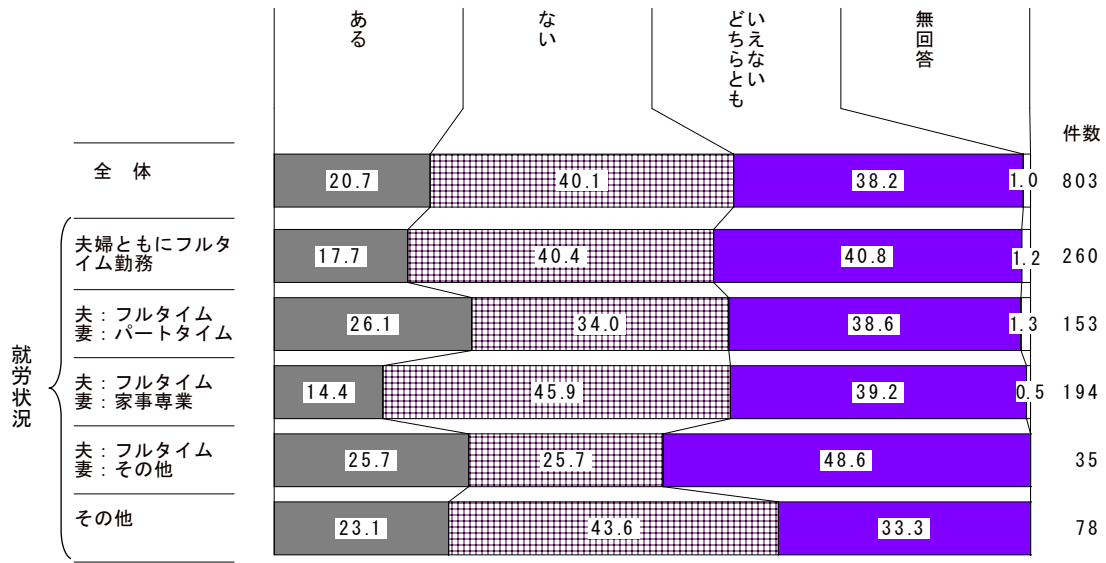
【図 3-1 地域全体で子どもを育てているという実感について（年齢別）】



【図 3-2 地域全体で子どもを育てているという実感について（家族構成別）】

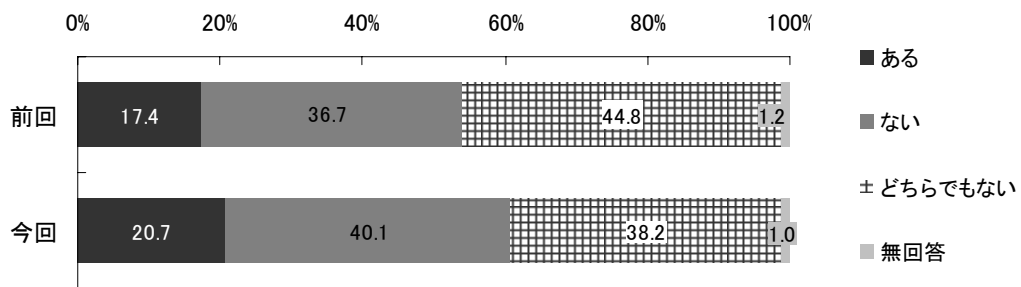


【図 3-3 地域全体で子どもを育てているという実感について（就労状況別）】



前回調査との比較

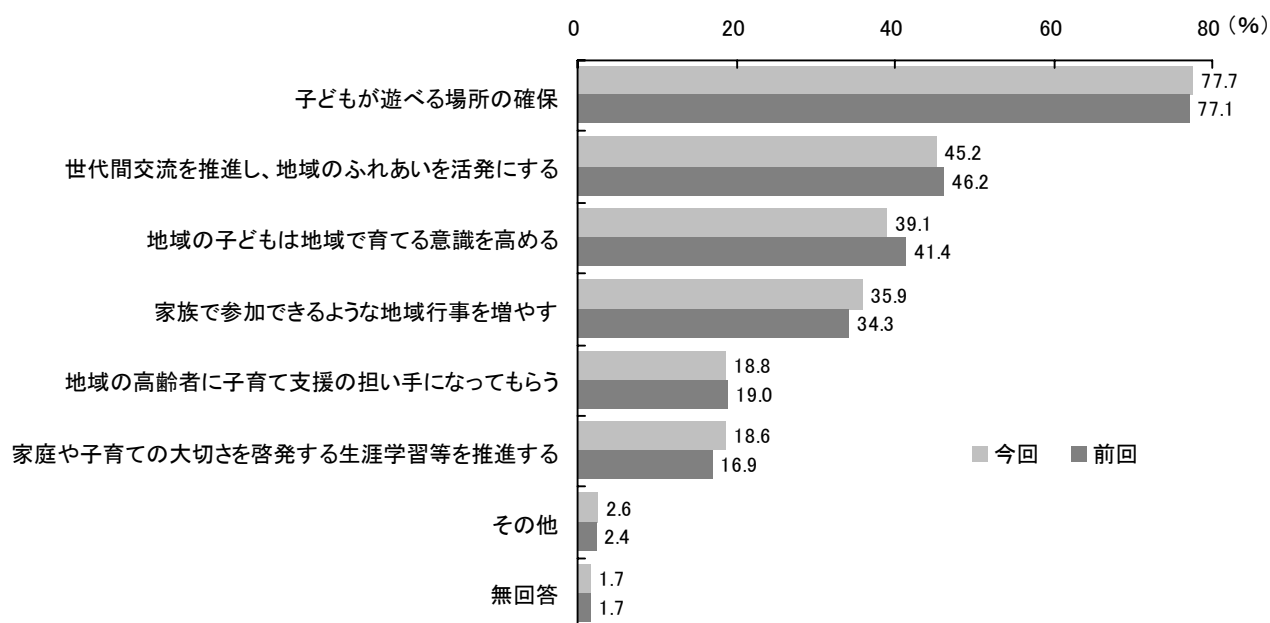
全体の回答について、地域全体で子どもを育てられているという実感が「ある」の割合は、前回は 17.4%、今回が 20.7%と大きな変化はみられない。



（２）地域全体で子どもを健やかに育てるために必要なこと

地域全体で子どもを健やかに育てるために必要なことについて、「子どもが遊べる場の確保」が77.7%で圧倒的に多くなっている。次に「世代間交流を推進し、地域のふれあいを活発にする」（45.2%）、「地域の子どもは地域で育てる意識を高める」（39.1%）、「家族で参加できるような地域行事を増やす」（35.9%）などが続いている。

【図 3-4 地域全体で子どもを健やかに育てるために必要なこと】



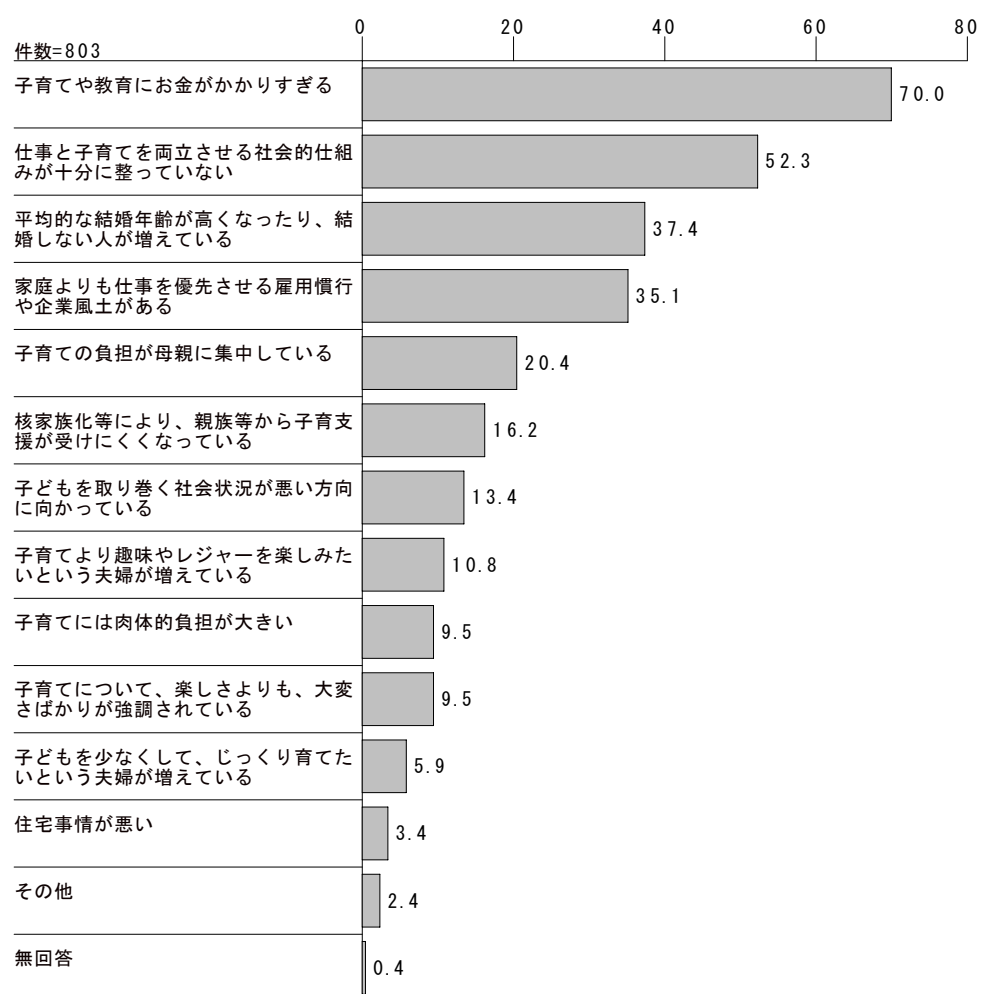
前回調査との比較

前回の調査と比較すると、ほとんど変化はみられない。

（３）出生率が低下している原因について

出生率が低下している原因について、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が 70.0%で最も多く、次に「仕事と子育てを両立させる社会的仕組みが十分に整っていない」（52.3%）、「平均的な結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えている」（37.4%）、「家庭よりも仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある」（35.1%）などが続いている。

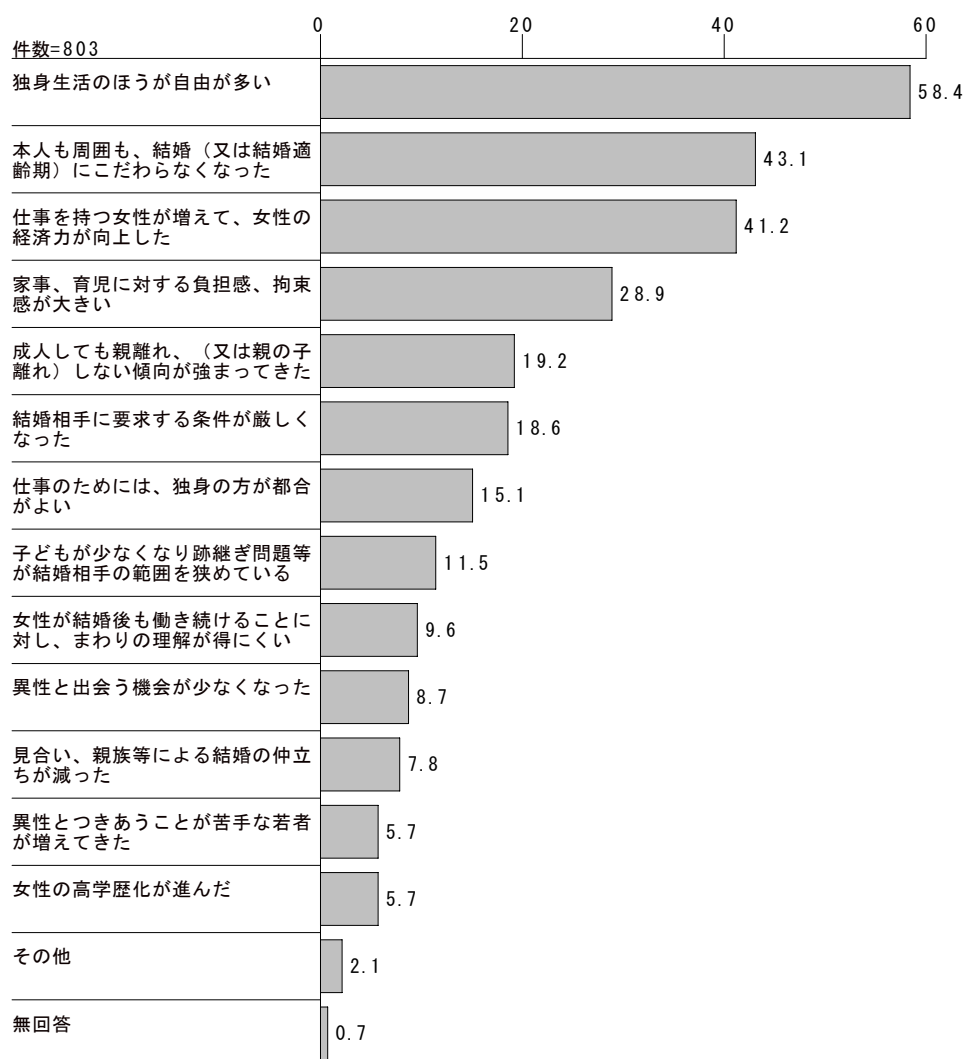
【図 3-5 出生率が低下している原因】



（４）晩婚化、非婚について

晩婚化や非婚の原因について、「独身生活のほうが自由が多い」が58.4%で最も多く、次に「本人も周囲も、結婚（又は結婚適齢期）にこだわらなくなった」（43.1%）、「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した」（41.2%）、「家事、育児に対する負担感、拘束感大きい」（28.9%）などが続いている。

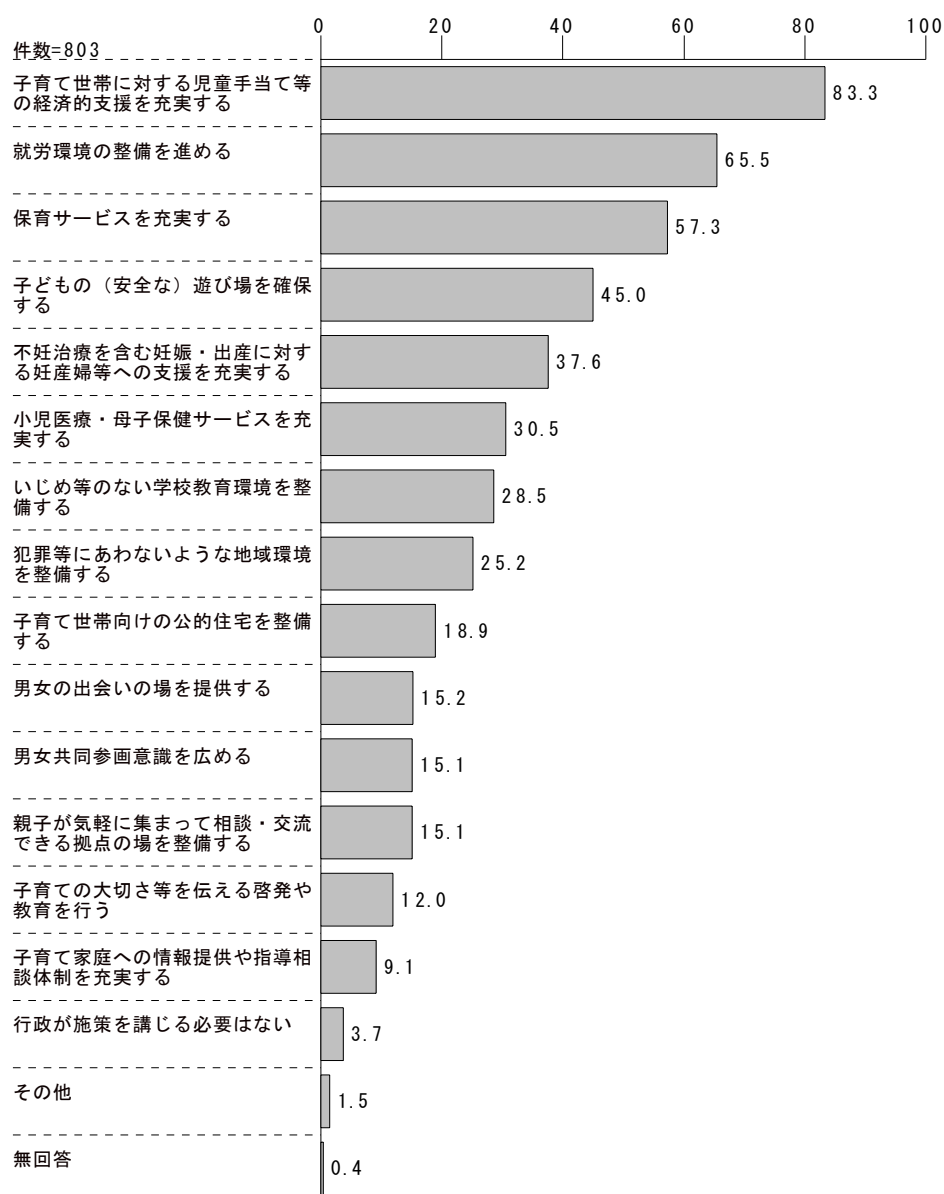
【図 3-6 晩婚化や非婚の原因】



(5) 少子化に歯止めをかけるために必要な政策について

少子化に歯止めをかけるために必要な政策について、「子育て世帯に対する児童手当等の経済的支援を充実する」が 83.3%で最も多く、次に「就労環境の整備を進める」(65.5%)、「保育サービスを充実する」(57.3%)、「子どもの(安全な)遊び場を確保する」(45.0%)、「不妊治療を含む妊娠・出産に対する妊産婦等への支援を充実する」(37.6%)、「小児医療・母子保健サービスを充実する」(30.5%)などが続いている。

【図 3-7 少子化に歯止めをかけるために必要な政策】



（６）経済的支援策として望むもの

少子化に歯止めをかけるために必要な政策として「経済的支援が必要」と答えた人に具体的な経済的支援策をたずねたところ、「児童手当の増額」が 51.3%で過半数となっている。次に「保育所保育料・幼稚園保育料の軽減」(23.2%)、「乳幼児医療費の軽減」(9.9%)、「妊婦検診に対する公的助成の拡充」(8.4%)、「出産祝金制度の創設」(3.7%)の順となっている。

【図 3-8 経済的支援策として望むもの】

